

総合戦略基本目標
地方創生関連交付金活用事業

評価シート

2019（令和元年）_効果検証

令和元年度 佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標評価シート（評価対象：平成30年度）

※達成状況 ◎：H30年度の達成状況が100%以上 ○：H30年度の達成状況が50%以上、100%未満 △：H30年度の達成状況が50%未満

基本目標	具体的施策	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		最終年目標値 (R1年度)	達成状況	達成度(%)	評価委員数
				実績値	実績値	実績値	目標値	実績値				
安定したしごとをつくる	地域貢献企業・創業者への応援体制確立	創業件数(累計)(件) (チャレンジジョブ、空き店舗活用等、市の支援事業を活用して創業した件数)	6	(累計19) (単年13)	(累計28) (単年9)	(累計37) (単年9)	(累計48)	(累計51) (単年14)	(累計60)	◎	106	
		企業誘致件数(累計)(件) (官民の産業団地への誘致企業数)	11	(累計15) (単年4)	(累計21) (単年6)	(累計26) (単年5)	(累計19)	(累計28) (単年2)	(累計21)	◎	147	
	地域資源を生かした地域産業の振興	中心市街地(佐野駅周辺)が便利・にぎやかになったと思う市民の割合(%)	54.1	57.3	57.9	52	66	56.2	70	○	85	
		佐野田沼IC入出庫台数(台)	2,284,208	2,294,101	2,312,530	2,366,735	2,664,800	2,394,929	2,760,000	○	90	
	都市型農業の推進と農業経営の規模拡大	新規就農者数(青年就農給付金活用者)(累計)(人)	8	(累計9) (単年1)	(累計31) (単年22)	(累計37) (単年6)	(累計44)	(累計42) (単年5)	(累計55)	○	95	
		農地の利用集積(農地貸借面積)(ha)	1,137.0	1,150.8	1,156.8	1,170.7	1,200.0	1,154.8	1,250	○	96	
事業評価	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合										0
	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合										10
	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合										1
	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合										0
			評価なし									
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標に近い実績をあげている。戦略掲載事業で事業進捗が前年比でマイナスのものについて、その原因究明と対策の検討をお願いしたい。 ・中心市街地の活性化においては、なぜ、中心市街地を活性化することが今の時代に必要なのかということをし、しっかりと市民に伝えるべきであると考え。現在、車社会において、あえて駐車場などが少ない中心市街地に行く必要性が消費者はなく、起業した方も売り上げが伸びないという状況をつくってしまうと思う。 ・新規就農者が安定したしごととなるためには「販路」の支援が一番必要ではないか。 ・地域資源の活用、都市型農業についてはもう少し時間が必要だろう。 ・創業支援をした結果、大変良い数字となった。だが、廃業件数も比較してみるほうが現実的であると思う。 ・佐野市役所が建設されたことから、同庁舎が中心市街地のコアとなり活性化が進展するものと期待していたが、現時点でも桐生岩船線の沿道で空き店舗や空き地が目立っている。 ・瞬間的な振興が長期的、安定的となる取り組みに期待。 											

令和元年度 佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標評価シート（評価対象：平成30年度）

※達成状況 ◎：H30年度の達成状況が100%以上 ○：H30年度の達成状況が50%以上、100%未満 △：H30年度の達成状況が50%未満

基本目標	具体的施策	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度		最終年目標値 (R1年度)	達成状況	達成度(%)	評価委員数
							目標値	実績値				
新しい人の流れをつくる	「住んでよし、訪れてよし」佐野市シティプロモーション	市区町村の全国認知度ランキング(全国1000市区町村) (位)	399	399	415	467	120	419	50	△	未達	
		年間観光入込客数(千人)	8,623	8,554	8,700	8,883	9,725	8,741	10,000	○	90	
	UIJターンの促進	市外からの移住者数(アンケートで把握できた数)(人)	-	(累計126) (単年126)	(累計255) (単年129)	(累計478) (単年223)	-	(累計525) (単年47)	150	◎	最終年目標値比 350	
		転入者数(人)	3,197	3,102	3,357	3,304	3,320	3,429	3,350	◎	103	
	移住者受け入れ態勢の整備	空き家バンク物件契約締結件数	-	-	(累計0) (単年0)	(累計5) (単年5)	-	(累計14) (単年9)	30	△	最終年目標値比 47	
		佐野暮らし相談件数	5	(累計13) (単年8)	(累計25) (単年12)	(累計44) (単年19)	40	(累計87) (単年43)	50	◎	218	
事業評価	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合										0
	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合										5
	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合										6
	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合										0
		評価なし										2
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者について一定の成果を生んでいるが、空き家バンクについては契約締結件数が目標に大きく届かず、登録件数の伸びも小さい。不動産事業者など民間との連携を密にして取り組んでいただきたい。 ・隣の栃木市ではこの分野で大きな成果をあげており取組の研究を進めてはどうか。 ・シティプロモーションにおいては、SNSの広がりにより、一市民が情報の発信を容易にできる時代であるからこそ、市民が「佐野市の広告塔」として佐野市の魅力や情報を発信していく市民になるために、行政でも考えている市民のシビックプライドの醸成が非常に重要であると考え。そしてシビックプライドを持った市民がより分かりやすく、伝わりやすく、楽しく魅力の発信ができるようなシステムの構築を行政と市民、協働で進めていけるといいと思う。 ・イベント民泊の制度などを利用し、佐野市に訪れた方に、より「リアル」な佐野市の魅力を感じていただけたらと思う。 ・認知度ランキングと空き家バンク契約締結数を除いておおむね目標を達成し、移住者数や佐野暮らし相談件数は目標を大幅に上回っており、事業目的に大いに貢献している。特に若者移住、定住促進事業の効果が期待できる。 ・移住や居住促進事業が他紙と比較して、佐野市は弱いのではないかと。 ・転出数の減少対策が必要。 ・補助金の種類を増やし、栃木市のような特急代補助のような大胆な制度を検討してもよいのではないかと。 ・佐野の認知度UPに何が必要か。他の都市にないアピールを考えるとよいと思う。 ・「UIJターンの促進」の達成度は350%、100%といずれも100%を超えているが、Uターンへの実効性のある取り組み(高校の卒業生が大学卒業後に佐野市に戻ってくる施策の策定と実施)を行い、結果(具体的なKPIを設定)を出していただきたい。 											

令和元年度 佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標評価シート（評価対象：平成30年度）

※達成状況 ◎：H30年度の達成状況が100%以上 ○：H30年度の達成状況が50%以上、100%未満 △：H30年度の達成状況が50%未満

基本目標	具体的施策	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度		最終年目標値 (R1年度)	達成状況	達成度(%)	評価委員数
							目標値	実績値				
結婚・妊娠をかなえる・子育ての希望	結婚・妊娠・出産の支援	出生者に占める第3子の割合(%)	14.6	15.2	17.6	15.2	-	17.2	15	◎	115	
		子育てを楽しんでいる市民の割合(%)	91.1	93.3	97.4	99.1	93.5	95	95	◎	102	
	安心して子育てができる環境づくり	子育てに負担や不安を感じている市民の割合(%)	80.6	80.0	77.6	67.3	74.0	65.9	70.0	◎	112	
		第3子以降出生数(人)	133	130	148	123	143	138	150	○	97	
事業評価	地方創生に非常に効果的であった		例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合									2
	地方創生に相当程度効果があった		例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合									5
	地方創生に効果があった		例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合									4
	地方創生に対して効果がなかった		例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合									0
			評価なし									2
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI達成から見ればおおむね目標を達成しているとみなせる。しかし、「出生者に占める第3子の割合」が徐々に高まっているということは、生める条件を備えた女性(家族構成、就業有無や就業条件から見て)が第3子以上をもうけていることを示している。本来は、生めることのできる女性を増やしこのKPIが下がる(同時に出生数が増える)ことが望ましいとも言える。停滞しつつある婚活事業など取組を進め、婚姻数および出生数を伸ばして、出産のすそ野を広げる努力をすべき。 ・子育てを楽しんでいる人の割合の増加、負担や不安を感じている人の割合の減少ができたということは、本来であれば出生率の向上につながるはずであるが、現状つながっていない。 ・各種施策において、第3子以降を対象にした施策が多いが、全国的な数値として「理想の子どもの数は？」という問いに対して約2.4人前後である。ならば第3子を対象とした施策が有効であるとは考えにくい。 ・「多子社会」のすばらしさを伝えていくことも非常に重要であると考え。 ・不妊医療費助成事業及び第3子以降保育料免除事業は利用効果があり、逆にふれあいパーティーは参加しなくなる企画を考え、人数を増やす取り組みが必要ではないか。 ・佐野で出産・子育てをすると得である・楽になるという政策を実行してほしい(出産・子育て・教育を重点的に)。 ・婚活・ブックスターなど、どの街でもやっていることは魅力がない。 ・国の施策規模でないとなかなか改善が難しいと思う。 											

令和元年度 佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標評価シート（評価対象：平成30年度）

※達成状況 ◎：H30年度の達成状況が100%以上 ○：H30年度の達成状況が50%以上、100%未満 △：H30年度の達成状況が50%未満

基本目標	具体的施策	KPI(重要成果指標)	戦略策定前	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度		最終年目標値 (R1年度)	達成状況	達成度(%)	評価委員数			
							目標値	実績値							
時代に あった 暮らし をつくり、 安心な	拠点連結(イモフライ)型 都市構造の推進	市営バス乗車人員(人)	121,292	124,932	133,211	139,675	124,500	142,323	125,000	◎	114				
	地域づくり活動の支援	市民活動に参加したことがある市民の割合(%)	58	54.9	56.8	62.6	67.6	59.9	70	○	89				
	地域防災体制の充実	自主防災組織町会率(%)	平成29年度より自主防災会組織町会率に指標を変更				49.1	55.1	58.7	62.9	-	66.5	76.6	○	71
事業評価	地方創生に非常に効果的であった		例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合									0			
	地方創生に相当程度効果があった		例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合									6			
	地方創生に効果があった		例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合									5			
	地方創生に対して効果がなかった		例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合									0			
			評価なし									2			
委員 意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標達成に近づいているが、特に防災体制の充実には注力すべきである。近年の豪雨災害リスクの上昇を考慮するならば、自主防災会組織町会率は早急に100%達成を図る必要がある。 ・市民活動において、市民活動というものを難しくとらえるのではなく、もっと簡単で楽しいものであるということを伝えていく必要があると感じる。 例えば、ギネスを利用した市民参加型のイベントの実施。誰でも簡単に楽しく参加できるということに関わる市民が増えることで、さきほどのシビックプライドの醸成にもつながると考えます。また、事業構築から行政、市民、企業などの多様なステークホルダーと手を取り合い、フラットな立ち位置でお互いの強みを活かし、弱みを補い、対話を通してまちの理想を描き、ともに実行していくことがこれからのまちづくりにおいては必要であると考えます。 ・路線バス運行整備事業など地域公共交通網形成計画策定事業の効果が大きい。更なる効果拡大の施策を期待。 ・最近、高齢者運転の事故が取り上げられている。佐野市では高齢の方の運転も多いと思うが、今後、免許証の返納を増やすためには、路線バスのインフラ整備やタクシー代の補助等を検討していく必要がある。 ・市民活動への支援や防災士支援等、地味ではあるが少しずつ広まっていくとよい事業だと思う。 ・「市民活動に参加したことがある市民の割合(%)」の割合は、平成29年度をピークに平成30年度は低下している。イベントを数多く実施している割には、低調な数字であるような気がする。 要因を分析し、市民に当事者意識を持って参加してもらえるようなイベントを検討してはどうか。 ・今後はバス乗車の利便性も検討したほうが良いと思う。 ・市営バスに関する取り組みは大いに評価。 														

令和元年度 地方創生推進交付金事業 評価シート（評価対象：平成30年度）

事業名①	地域の“芽”をパパの“目”で育てる「佐野パパプロジェクト」		評価委員数
事業評価	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	2
	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	7
	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合	1
	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	0
	評価なし		
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発する商品を一本化して重点的に取り組んだことで、1年間に取組にも関わらず市内20店舗以上での販売につながったことは評価できる。 ・ この初動期の勢いが持続可能なものとなるよう、例えばPDCAサイクルを回してより順調な軌道に乗るような仕組み、体制を作り上げていく市の働きかけが重要ではないか。特に、立ち上がった協会、検討を進めてきたグループの今後の活動の維持、発展をどう図るのか多少懸念されるところもある。 ・ 行政と市民（パパ）が協働で行う事業として素晴らしい事業であると感じる。今後の更なる広がりを考えると、唐揚げという枠を超えて、もっと広い業種、年齢、国籍などに向けた商品の開発、ブラッシュアップが今後の持続性を含め重要になる。 ・ このような事業は開発より販路確保が重要となるが、20店舗以上で販売され、食品加工メーカーとジョイントできたことは効果が期待できる。 ・ 新たに立ち上げた法人や協会が自走できる仕組み作りやプロモーションに市が積極的に関わっていくことが必要ではないか。そのため、市の資金面を含めた支援・連携体制を確立する必要があると感じる。 ・ 今後も情報発信やいろいろなメーカーとのジョイントで知名度を高めてほしい。 ・ 一気に全国区になったのは素晴らしい。 ・ 今後も多方面で市が支援、及び共催をしてほしい。 ・ B1グランプリなどにもチャレンジして、さらにメジャーを目指してほしい。 ・ 神宮球場等、県外でのPR活動も、当市の認知度アップに一定の効果をもたらしていると思う。 ・ 若年層を中心に広がりを実感できている。「なぜ佐野で黒から揚げなのか」という理由付けを明確にすることで説得力が増し、より広がりを期待できると思う。 ・ 高崎市のパスタのまちづくりも飲食業とは関係のない異業種グループが企画、定着させたと聞く。黒から揚げも同様の流れができているのが興味深い。 ・ 市のブランド力の強化には食の魅力向上が欠かせない。クリケットとともにPRすることによる相乗効果も期待したい。 		

令和元年度 地方創生推進交付金事業 評価シート（評価対象：平成30年度）

事業名②	「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト		評価委員数
事業評価	地方創生に非常に効果的であった	例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合	0
	地方創生に相当程度効果があった	例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合	5
	地方創生に効果があった	例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合	4
	地方創生に対して効果がなかった	例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合	0
	評価なし		4
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・他の自治体では真似のできない佐野市らしさに溢れた注目度の高い事業であることは間違いない。 ・ロードマップを早急に市民に対して示して巻き込んでいく市（および合同会社）側の積極的な姿勢が求められるように感じる。 ・できるだけ情報を公開して進めていかないと市民の協力は得られない。その意味では市民が何を知りたがっているのかについてモニタリングを継続的に行う必要もある。 ・市内小中学校などでの体育授業、あるいはクラブ活動などにクリケットを取り入れることも必要である。 ・特に日本、佐野市においても競技人口を考えると、施設などの整備も大事なことではあるが、その施設を利用する人材（選手）がいないと難しいと思う。 ・国際試合等の誘致をすることで一過性の域内消費額は増えると思うが、佐野市が「クリケットのまち」と言われるくらいに市民を巻き込んだクリケット文化を根付かせる施策の実施が必要であると考えます。 ・国際クリケット場としてのPR（会場への垂れ幕設置）、大手企業とのスポンサー契約等が事業目標（安定した仕事をつくる）のポイントになるのではないかと。 ・会場へのアクセス確保が必要。 ・行政側の連携と支援を強化し、積極的に進めて欲しい。 ・とても大きな予算が動いているので、市民が大きな効果を期待している。 ・佐野市民がほとんどなじめていない。 ・評価するのは時期尚早。 ・まずはクリケットの認知度を上げることが必要。 ・「クリケット」というスポーツが、佐野市の中だけでひとり歩きしてしまっているという印象。 ・点の動きは伝わってくるが、線になり面となるためには時間がかかりそうな状況ではないのか。 ・マネージャーには尖ったプロジェクトの実施を期待したい。 ・目の付けところが斬新。まだ途上にあり、今後の取り組みに期待。 ・大きな予算が伴うだけに、市民に理解を得られる形で進めることが肝要。 		